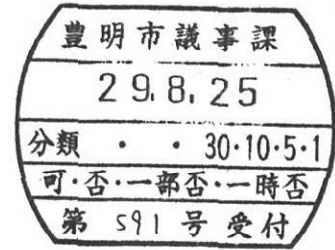


豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 三浦桂司



29 年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成 29 年 7 月 27 日	秋田県潟上市	学力向上の取り組みについて
28 日	秋田県秋田市	もったいないアクション(食品ロス)について

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

行政視察報告書

日時: 平成 29 年 7 月 27 日(月曜日)~28 日(火曜日)

場所: 秋田県潟上市 秋田県秋田市

三浦桂司

7月27日(木曜日) 秋田県潟上市役所

視察場所: 秋田県潟上市

視察項目: 学力向上について

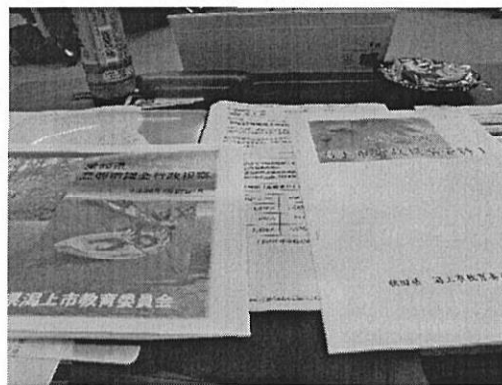


目的

秋田県は、全国学力・学習状況調査において例年
全国トップレベルで、児童・生徒質問調査7項目
において

1、授業で課題に対し、自ら考え自分から取り組む。2、授業で自分の考えを
発表する機会では、工夫して発表する。3、小学校午後 11 時/中学校午前 0 時より
前に寝ている。4、家で学校の授業の復習をしている 5、人が困っている時は、
進んで助ける。の部門で全国 1 位となっている。

潟上市には、学習塾が圧倒的に少ないが、学力は上位にあり、そこで、学力向
上の取り組みについて、潟上市教育委員会、学校教育課長などから、普段どの
ような教育方針で臨んでいるかや、成果についてお聞きした。



座学、質疑応答において

重点事項を確かな学力と豊かな人間性の育成とふるさと教育の充実に置いて

- 幼保、小、中の連携、校種間を貫く教育の推進
- キャリア教育の視点を生かしたふるさと教育の充実
- 特別支援教育の視点を生かした魅力ある学校・学級づくりの推進

基礎学力の定着を図る、個を伸ばす、主体的・創造的・協同に生きる力を育て

る総合学習の時間の充実、指導に生かす評価の工夫、教育連携を活用した指導力の向上を目指している。

生徒指導においては、互いのよさを認めあい思いやりのある心を育てる生徒指導を目標に、温かい人間関係、信頼で結ばれた学校生活の充実、不登校生徒への学校全体による指導・援助体制の強化と、教育委員会・関係機関との連携を図っている。

スクールカウンセラー、子どもと親の相談員、心の教室相談員を置いている。道徳教育においては、豊かな心の育成と道徳教育の充実を目標に、全体計画や年間指導計画を作成して内面に根差した道徳性、体験的活動の積極的推進を図っている。特別活動、キャリア教育、教職員研修にも力を注いでいる。

7月28日(金曜日) 秋田県秋田市役所

視察場所: 秋田県秋田市市役所

視察項目: 食品ロスについて (もったいないアクション)

目的

豊明市は、3月末をもって、豊明市杓掛堆肥センターを廃止した。いま日本では、頑張って田畑で米や野菜作りにいそしんでも、小作では、ブランド品を扱う農家や大規模な量を扱う農業生産法人、輸入価格にはかなわず、結果としてスーパーなどでコメや野菜を購入したほうが、自らの田畑で作るより安価である。一方、カロリーベースでは食糧需給率は38%に下がり、食べることが出来る食品の4割ほどが廃棄されて、世界では8億人、人口の9人に1人が飢饉の状態で、4人に1人の子どもが慢性的栄養不足となっている。

しかし日本国内では、まだ食べることが出来る食品が大量廃棄されていて2015年ベースで630万トンの前後、事業系1930万トンのうち、330万トンほど、一般家庭から捨てられる870万トンのうち可食出来る量は300万トン強が、食品ロスとして廃棄・焼却されているのに、強い違和感を覚える。また、国内においても子どもの6人に1人が貧困生活を送っているという統計がある。

食べきれないほどの食糧を生産・輸入して、大量に廃棄するのが正しい姿ではない。フードバンク制度を確立して、十分に食べることが出来ない地域へ、安全に公平に食料を送ることは出来ないかとともに、身近に出来る事はないか視察に出かけた。

座学、質疑応答において

秋田市において、家庭ごみの組織割合は、食べ残しを含む生ごみが、家庭ごみの50%を超えている。また手つかずの食材が多く捨てられている。

そこには痛んでいない野菜や弁当、パックのままの魚や冷凍食品も含まれている。

食べ物を「生ごみにしない」ために計画的に購入、食べ切れる量を調理、おいしく食べきる事をテーマに進めている。



秋田市が進める食品ロスの取り組みとして

- 1、食べきりアイデアレシピの集の作成
- 2、もったいないアクション「食う〜べえタイム」自分の席で料理を楽しむ時間を設ける。乾杯から30分と中締め前10分を目安として設定する3010運動の推進
- 3、各テーブルやレジ前にも置けるミニサイズのPOPを作成
- 4、もったいないアクション協力店を募り市のホームページにおいて「もったいないアクション協力店」として登録の協力依頼。主として食べきりサイズ(ハーフサイズ)の設定、また状況に応じて持ち帰り希望者への対応、そのほか、食べ残しを減らすための工夫の協力依頼。



事業者、自治体、消費者自身が、出来る事から始める食品ロス削減運動をしている。